

## 研修プランA 7

# 2つの授業の事実を比較し教科等横断的な視点を共有する

- 目的 2つの提案授業の児童・生徒の学ぶ姿とそれを支える教師の手立てを比較し分析することを通して、教科等横断的な視点から授業改善に向けた取組を共有することを旨とする授業研究会です。
- 対象 校内
- 時間 70分
- 形態 全体→個人→グループ→全体→個人  
※グループの分け方：3～4名で教科が混在しているグループ編成
- 準備物 付箋（5cm×7.5cm、3色：桃色・黄色・水色、人数分×各15枚くらい）  
模造紙（ベン図例：スライド番号4参照、グループ数）  
日常化シート（人数分）  
黒サインペン（人数分）  
画鋸かテープ（模造紙を貼るために使用）

### ●研修前

#### ○提案授業について

- ・同一学年の異なる教科等の提案授業を提示（同一学年の異なる教科等の提案授業を分析することを通して、教科等横断的な視点から授業改善に向けた取組を共有するため）
- ・学習指導案に、本単元で育成を目指す資質・能力を明記

### ●研修

流れ	進め方	留意点等	スライド番号
1 研修の説明 【全体】（3分）	○目的と流れについて確認し、参加者と研修の見通しを共有する。	○目的は上記「■目的」参照 ○流れは左欄「流れ」参照	1 2
2 個人での分析 【個人】（7分）	○参観した児童・生徒の姿とそれを支える教師の手立てについて付箋に記入する。	○付箋記入時は次の点に留意する。 ・付箋の色は、よかった点（桃色）、課題点（黄色）、改善案（水色） ・左上に時刻、右下に記名 ・授業中に記入したメモを基に具体的な文章で記述	3

<p>3 グループ協議① 【グループ】(30分)</p>	<p>○記入した付箋をベン図を記載した模造紙に貼り、分類・整理する。 ○2つの授業を15分ずつ協議するように促す。</p>	<p>○最初に、参観した児童・生徒の姿を、付箋に記載した時刻を基に並べて共有する。次に、教師の手立てについて、模造紙に貼った児童・生徒の姿と対応させて分析する。 ○課題点(黄色)に対しては、「教師の手立て」として改善案(水色)で記述し、付箋を貼る。</p>	<p>4 5</p>
<p>4 グループ協議② 【グループ】(10分)</p>	<p>○2つの授業の分析を通して見えてきた教科等を横断して育ててきている児童・生徒の資質・能力、さらに育てていきたい資質・能力について協議をし、付箋に記入してベン図の中央に貼る。</p>	<p>○グループ協議①での分析結果を「教科等横断的なもの」「教科等固有のもの」の視点で比較する。 ○付箋の色分けは次の通りとする。 ・2つの授業の分析を通して見えてきた教科等を横断して育ててきている児童・生徒の資質・能力(桃色)、さらに育てていきたい資質・能力(黄色)</p>	<p>6</p>
<p>5 分析結果の協議 【全体】(15分)</p>	<p>○教科等横断的な視点から授業改善に向けた取組を協議し、共有する。</p>	<p>○各グループのベン図の中央に貼られたことを比較しながら分析することを通して、教科等横断的な視点から授業改善に向けた取組を共有する。</p>	<p>7</p>
<p>6 省察 【個人】(5分)</p>	<p>○全体協議を受けて自身の教科等で取り組むことを日常化シートに記述する。</p>	<p>○視点を自分自身に移し、各自が明日からの取組に生かせるようにする。</p>	<p>8</p>

## ●研修後

- 各グループの分析を記述した模造紙は、次の授業研究会の時まで職員室等、常に職員が目にする場所に掲示し、いつでも見直して考えられる環境を整える。
- 次の研修会の時に、本研修会で協議された教科等横断的な視点からの授業改善に向けた取組がどのように実践されたのかを日常化シートを使って共有、分析する。
- 教科等横断的な視点からの授業改善の取組を学年部会、教科等主任会で集約し、カリキュラム・マネジメントに生かしていく。